

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく2

国立市立国立第七小学校

平成26年5月1日 NO.8 (108)

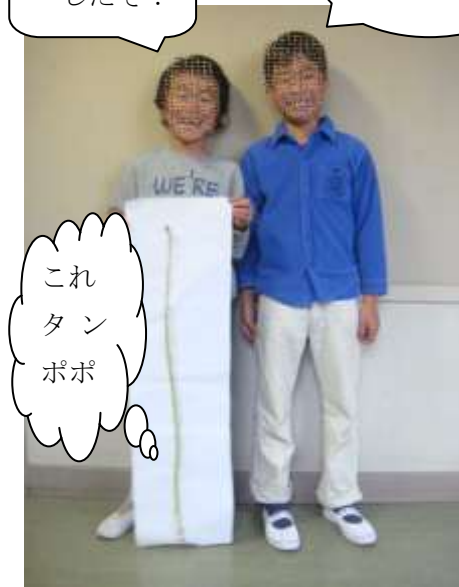
ゲット
したぞ！

すごい
だろう！

とても
長いよ！

82センチも
あるよ！

これ
タン
ポポ



Sくん 「ねえねえ！みんな見て！」

Sくん 「すごいだろう。これ、ぼくたちがゲットしたんだ。」

Sくん 「とっても、ちょう、長いんだ。」

Sくん 「わかりやすいように、紙にはったんだ。」

Sくん 「つまり、おし花みたいにしたんだ。」

オー君 「なんだろう？植物みたいだけど・・・。」

Sくん 「オー君！よく見て。オー君も国立第七小学校のみんなも、いつもとてもよく見ている植物だよ。黄色いお花だよ。」

Sくん 「上の方を、よく見るとわかるよ。」

オー君 「ぎょ！！これは、もしかして・・・ひょっとして・・・タンポポ？」

Sくん 「ピンポーン。大当たり！」

Sくん 「上を見ると、綿毛（わたげ）が飛（と）んだようすがよくわかるよ。」

オー君 「花の茎（くき）がこんなに長くなったのは、初めて見たよ。ところで、どうしてこんなに長くなるんだっけ？」

花ちゃん 「あらあら、オー君。忘（わす）れちゃったの。去年（きょねん）の『国立

テクテク NO.4』にちゃんと書かれてあるわ。つまり、綿毛を高くした方が、種（たね）をより遠（とお）くへ飛ばせるからなのよ。」

Sくん 「そのとおりだね。ぼくたちね、校長先生と花の茎の長さを定規（じょうぎ）ではかったんだ。」

Sくん 「そしたらね、何と！82センチもあったんだ。」

Sくん 「こんなに長いのは、めったにないんだ。」

Sくん 「見つけた時に、うれしくてうれしくて、それで校長先生に見せたんだ。」

Sくん 「ぼくたちは、長いながーいタンポポの花の茎ゲットのチャンピオンなんだ。」

Sくん 「すごいだろう。えっへん！」

オー君 「よーし！おいらだって、Sくんたちに負（ま）けないくらいなが———— いものをさがすぞ。」

Sくん 「それでは、みんなでチャンピオンめざしてがんばろう。」

Sくん 「そうだ。そうだ。そうしよう！」

花ちゃん 「でも、ちょっと待って。私、またわかんなくなっちゃった。」

オー君 「どうしたのさ。花ちゃん。何か気になることがあるの。」

花ちゃん 「あのね。花の茎が長くなるのはわかるけど、どうしてもながーいのと、あまり長くないものや、とても短（みじか）いのがあったら。」

モンタ博士 「そうだね。なぜだろう？と疑問（ぎもん）に思うことが大切だね。どうしてもかなと不思議（ふしぎ）に思うことが必要なんだね。」

オー君 「自然の世界には、ぐうぜんというものはいいですね。」

花ちゃん 「そうね。みんな目には見えないけど、何かきまりがあるのね。」

モンタ博士 「そうだね。目には見えないものでも、じーとよく見て、よーく考えて、いろいろと調べることで、そこにきまりがあることを発見していくんだよ。それをね、科学（かがく）というんだ。」

オー君 「なんだか、ちょっと難（むずか）しいお話になってしまったけど、みんなでいろいろと調べてみようよ。」

Sくん 「そうだ。みんなで力を合わせて、タンポポの『なぞ』を発見するぞ！」